

衛生動物だより

No.053

シラミバエ

私たちはマダニの調査をしています。先日、仕留められたシカに付いていたマダニを数十匹ほど頂きました。

そのマダニを観察していたところ、明らかにマダニではなく、頭・胸・腹に分かれる昆虫類で、体長が5mmほどの見たことがない虫が十数匹いたのです。

その姿は、平らな体型をしており、脚の曲がり方や頭などがヤゴ（トンボの幼虫）のように見えました。おまけに体には剛毛がたくさん生えており、爪は大きく湾曲しているのです。

“これは何じゃあ!?”と思いながら、よく見てみると、ハネのちぎれた跡があったので、チョウ目?ハエ目?その他もろもろ・・・?

いろいろ調べると、シラミバエの仲間だということがわかりました。世界には約200種類ほどのシラミバエ類がいるようです。

名前の通り、ハエの仲間になるのですが、みなさんが普段見かけるようなハエの姿とは全く異なります。

シラミバエは、いろいろな哺乳類や鳥類に寄生して血を吸い、卵を産まずに幼虫やサナギに近い形で1回に1匹産出します。

羽化したてはハネが生えていて飛ぶことができ、宿主に付くとハネが擦り切れて無くなっていきます。

体には動物の毛が絡みやすいためにか、太い毛が沢山生え、爪も体の割には大きく湾曲しています。

吸血は普段引き込まれている鋭い口器である吻（フン）を刺して行います。

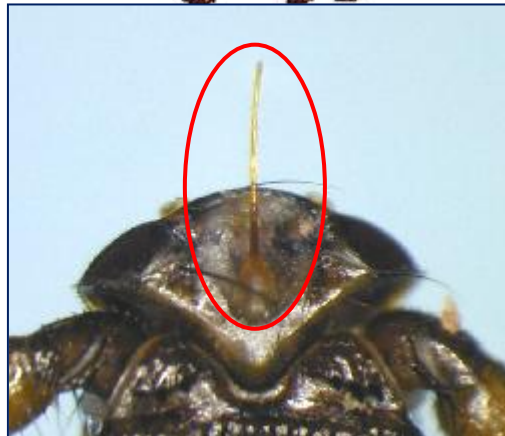
ヒトに寄生はしないようですが、ハネがあるときにまわりついて飛んだり、偶発的に吸血することもあるようです。



扁平した頭部



鋭く曲がった大きな爪



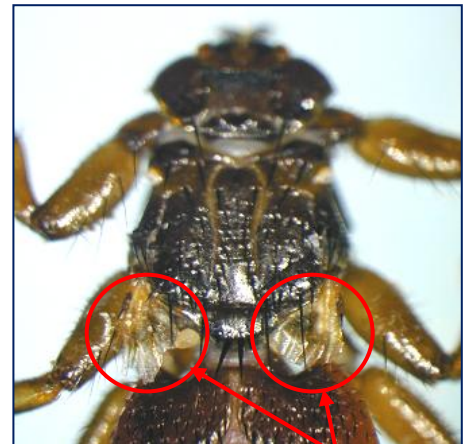
細くて長い吻（フン）



背面（メス、オス）



腹面（メス、オス）



背面に生えた剛毛とハネがきれた跡



腹面に生えた剛毛